

令和4年度 福岡県立大学人間社会学部  
学校推薦型選抜、社会人特別選抜  
国外就学経験者（帰国生）特別選抜  
留学生特別選抜、転・編入学  
入学試験問題

## 小論文（人間社会学部）

試験時間

90分

### 受験上の注意事項

1. 配付物は、問題冊子1部（6ページ）、解答用紙1枚、下書き用紙1枚である。
2. 受験する学部の問題冊子が配付されているか、確認すること。
3. 試験開始の指示があるまで、問題冊子は開かないこと。
4. 解答は、すべて解答用紙に横書きで記入すること。
5. 解答用紙の所定の箇所に志望学科・受験番号を記入すること。なお、氏名は記入しないこと。氏名を記入した場合、解答はすべて無効になるので十分注意すること。
6. 解答用紙の欄外には何も記入しないこと。記入した場合、解答はすべて無効になるので十分注意すること。
7. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

問 題 以下の設問 1、設問 2 に答えなさい。

### 設問 1

次の文章を読み、(1)、(2)の問いに答えなさい。

※解答欄⑥～⑩は使用しない。何も記入しないこと。

①Sustainable Development Goals (SDGs) は、2015年の国連サミットにおいてすべての加盟国で交渉し合意したものです。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている、「誰ひとり取り残さない」社会の実現を目指す世界共通の目標です。

これらのゴールは、前身のMillennium Development Goals (MDGs) とは異なり、開発途上国だけに関係するものではありません。日本国内でも、企業や地方公共団体などが、この達成に向けて、積極的に取り組んでいます。

17のゴールと169のターゲットの中には、子どもに関わるものも含まれています。したがって、教育機関などでの取り組みも重要です。そして、SDGsでは、子どもは守られるべき脆弱な人々に含まれますが、同時に「重要な変化の担い手」ともされています。

また、子どもを巡っては、「児童の権利に関する条約」が、1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に②ハッコウシ、日本は1994年に③ヒジュンしました。

「児童とは、18歳未満のすべての者をいう。」(同条約第1条)と定義されています。この条約は国際人権④キヤクにおいて定められている権利を児童について敷衍し、児童の権利の尊重及び確保の観点から必要となる詳細かつ具体的な事項を規定したものです。なお、この条約は「子どもの権利条約」と呼ばれることもあります。

この条約は、以下の4つの柱から構成されています。

- 1 生きる権利：住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなど、命が守られること。
- 2 育つ権利：勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できること。
- 3 守られる権利：紛争に巻きこまれず、難民になったら保護され、暴力や⑤サクシュ、有害な労働などから守られること。
- 4 参加する権利：自由に意見を表したり、団体を作ったりできること。

<出典>公益財団法人日本ユニセフ協会「子どもの権利条約」  
[https://www.unicef.or.jp/about\\_unicef/about\\_rig.html](https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig.html)

こうした動きがある一方で、【資料 1】に見られるように、開発途上国を中心に、「児童の権利に関する条約」に反する、危険有害労働に従事する子どもが2020年時点で、7,900万人ほどいるのが現状であり、困難な課題が解決されないままになっています。

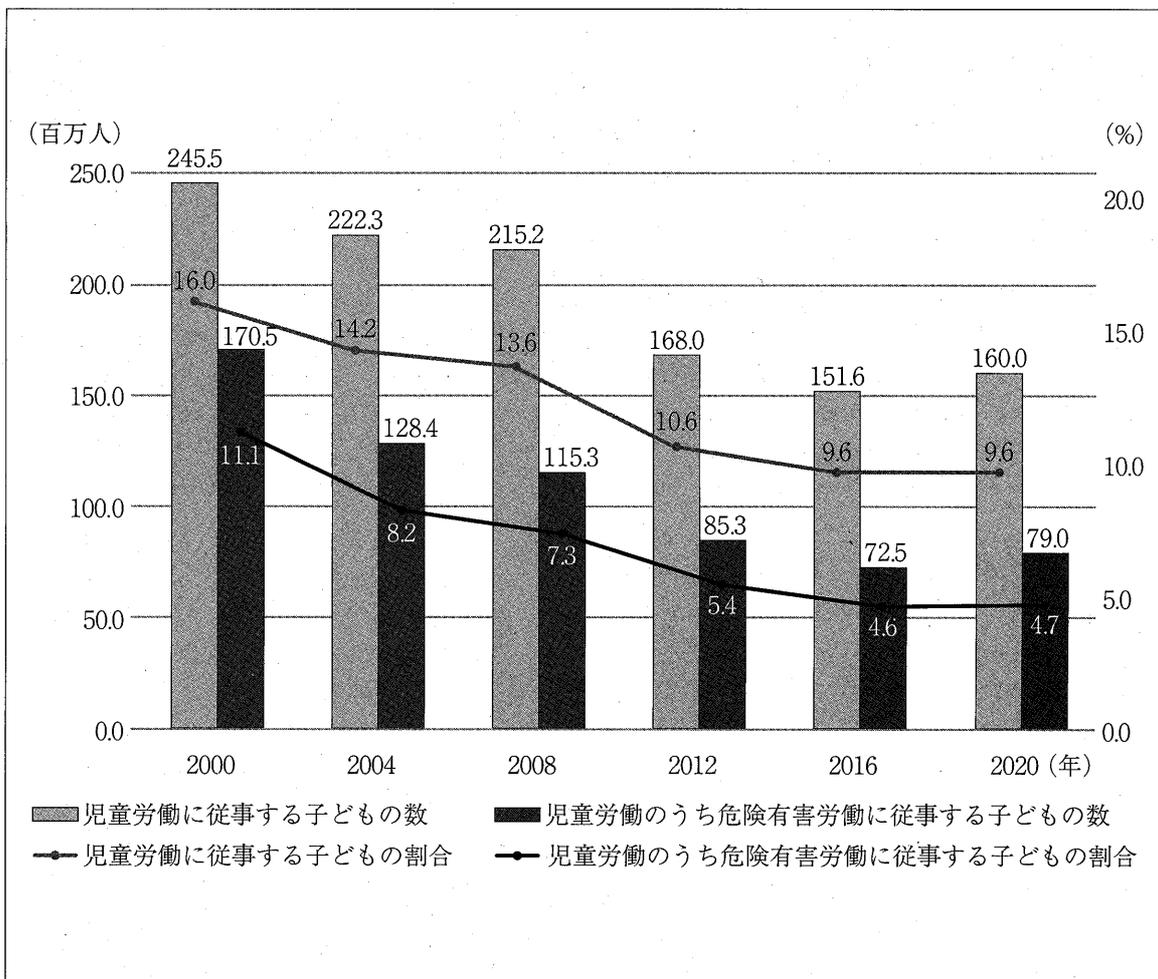
- (1) 下線部①の英語を日本語に訳しなさい。
- (2) 下線部②～⑤のカタカナを漢字にしなさい。

## 設問2

設問1の内容に言及しながら、【資料1】から【資料5】をもとに、子どもの現状と、「誰ひとり取り残さない社会」実現のための課題について、子どもを中心に600字程度で論じなさい。ただし、以下の点については必ず言及すること。

- ①世界の子どもの例から読み取れること
- ②日本国内の子どもの例から読み取れること
- ③国・地域を問わず共通する課題

【資料1】 児童労働と危険有害労働に従事する子ども（5～17歳）の数と割合



(注)このグラフは、全世界の子ども（5～17歳）のうち、児童労働と危険有害労働に従事する者の人数と割合を表している。

出典：ILO/unicef (2021) エグゼクティブ・サマリー「児童労働：2020年の世界推計、動向、前途」より作成。

## 【資料2】世界の子ども6つのエピソード

### 将来のことなんて考えられない ナイジェリア

ゴミため場で売れるものを探す国内避難民 ■■■■ さん (■■歳)。2、3日かけてようやく80~110円を得ます。2年前過激派がおそった村から逃げ出し、学校に行っていません。学費が無料でもその他のお金が払えないからです。■■■■ さんは将来について考えることすらできないと言います。

### いちばん近い診療所まで歩いて数時間 シエラレオネ

子どもの命をうばう主な感染症のひとつ、マラリアにかかって高熱を出した ■■■■ ちゃん (■■■■)。一刻も早い治療が必要ですが、村には医者がいません。いちばん近い診療所でも歩いて数時間かかります。

### やっと学校に行けるようになった バングラデシュ

街灯の光の下で宿題をする ■■■■ さん (■■歳)。学校から帰った後、母親がひろい集めた物売りの机で勉強しています。8歳で学校をやめ、3年間住み込みのお手伝いとして働いている間は、学校にも行けませんでした。

### もっと勉強をしたかったのです コンゴ

キンシャサの中学校に通う ■■■■ さん (■■歳)。13歳の時に結婚させられそうになり、それを断ったため家族に捨てられた経験があります。■■■■ さんは話します。「もっと勉強をしたかったのです。家にもどらなかったのは正解でした。高校に進学して貿易の仕事をしたいです」

### 元子ども兵士 ■■■■ さん(仮名、■■歳) 南スーダン

「コブラ派という武装グループにいました。はじめは調理係や洗濯係でしたが、司令官のボディガードを任されるようになりました。武装グループでは、ミスをすると牢屋に入れられ、何週間も暴力を受けます。解放されて、良い人間にもどれたと思います。将来はパイロットになりたいです」

### ぼくたちは奴隷のようだった ガンビア

ガンビアからの移民 ■■■■ さん、■■■■ さんの双子の兄弟 (■■歳) は、リビアで人身売買業者によって数か月にわたり過酷な肉体労働を強いられました。「もし逃げ出そうとすれば、やつらは撃つ。もし働く手を止めたら、やつらは殴る。仕事が終わると、鍵をかけた場所に閉じ込められ、ぼくたちは奴隷のようだった」

出典：公益財団法人日本ユニセフ協会（制作協力）(2018)『知っていますか？SDGs—ユニセフとめざす2030年のゴール—』さ・え・ら書房より作成。

**【資料3】** おとなに聞いてほしい

著作権の関係により掲載することができません

出典：「西日本新聞」朝刊 2020年6月25日掲載。出題の都合上、一部改変している。

## 【資料5】 Everybody, Somebody, Anybody, and Nobody

### Everybody, Somebody, Anybody, and Nobody

This is a story about four people named  
Everybody, Somebody, Anybody, and Nobody.  
There was an important job to be done and  
Everybody was sure that Somebody would do it.  
Anybody could have done it, but Nobody did it.  
Somebody got angry because it was Everybody's job.  
Everybody thought Anybody could do it,  
but Nobody realized that Somebody wouldn't do it.  
It ended up that Everybody blamed Somebody  
when Nobody did what Anybody could have done.

— Author Unknown

### 「みんな」「誰か」「誰でも」そして「誰も」

これは四人の物語。四人は、「みんな」「誰か」「誰でも」、そして「誰も」。  
ある大事な仕事、しないとイケない仕事がありました。  
「みんな」は「誰か」がやるはずだと思っていました。  
「誰でも」できるはずのこと、でも「誰も」しませんでした。  
「誰か」は怒りました。「みんな」の仕事だったのだからと。  
「みんな」は「誰でも」できるはずと思っていましたが、  
「誰か」がやるようには「誰も」しなかったのです。  
「誰でも」できることを「誰も」しなかったあげく、  
「みんな」は「誰か」を非難して、  
おしまいにしてしまいました。

出典：日能研教務部（企画・編集）（2017）『SDGs（国連「世界の未来を変えるための17の目標」2030年までのゴール）  
みくに出版，p.90